

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	どれみはうす		
○保護者評価実施期間	6年 12月 10日		6年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	6年 12月 20日		6年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	7年 2月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・人員配置が手厚く、利用者10名に職員が5名配置されている。また、保育士や教員免許を持った職員、児童指導員、社会福祉士や精神保健福祉士などの専門職が居り、多彩なニーズに対応できる。	・利用者のニーズに合わせた支援を、職員それぞれの専門性を生かしながら行う事ができるよう工夫している。	・職員研修などを通して、支援の質の向上に取り組む。
2	・利用者が思い切り身体を動かして遊べるスペースがあり、ドッジボールや大縄跳び、鬼ごっこ、わらべ歌あそびなどを楽しむことができる。	・楽しく遊べるよう、職員もしっかりと関わって色々な遊びにチャレンジできるように工夫している。 ・けん玉あそびや、お手玉、あやとりなど、指先や手足の感覚を加減しながら遊ぶことにも力を入れている。	・楽しみながら発達を促すことができる遊びを、新たに増やしていく。
3	・宿題のある利用者に対しては、遊ぶ前に宿題に取り組む習慣づけをし、学習を通じて職員とのコミュニケーションが生まれ、自分から質問をすることができるようになる。	・正しい姿勢で学習することで体幹の形成を促し、集中して着座ができるよう声掛けを行っている。 ・間違っても大丈夫というメッセージを伝え、友達と一緒に学ぶ楽しさを知ってもらおう工夫をしている。	・保護者と一緒に勉強会をするなどの取り組みを、継続して行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者向けに定期的(二か月に一度のペース)に座談会や勉強会を開催しているが、参加者が固定してしまう傾向にあり、よりニーズの高いテーマを知る必要がある。	・丁寧な呼びかけで、参加者を少しずつ増やしていけるよう努力していく。	・保護者に魅力を感じて参加してもらえるような座談会にしていく必要がある。
2	・たまたま避難訓練に当たらなかった利用者の保護者に、避難訓練の様子が伝わっていなかった。	・お便りなどに避難訓練の様子や、利用者の成長をしっかりと伝える必要がある。	・保護者への情報発信を強化していく必要がある。
3	・利用回数の少ない利用者が、事業所で行う行事に参加できないことがあるため、なるべく偏らないよう努力はしているが、そういったことがどうしても出てきてしまう。	・行事の回数を増やしたり、利用者が満足できる工夫をしていきたい。	・新しい行事を考え、実現できるよう取り組んでいく。